

ふじあざみ



富士山本宮浅間大社

千二百年の時を経て、今…

お浅間さんの愛称で人々に親しまれている浅間大社は、富士宮市中心部にある象徴的な存在です。正式名称は、富士山本宮浅間大社といい、日本全国に1300余りある浅間神社のなかでも総本宮として位置づけられています。大同元年(西暦806年)、征夷大将軍坂上田村麻呂によって、富士宮市山宮の浅間神社から現在の場所に移されて、ちょうど今年が1200年にあたります。もともと昔からあった山宮の浅間神社に対して、現在の浅間大社が里宮にあたります。

春と秋に神様が山宮と里宮を行き来し、それが山宮御神幸と呼ばれ、山宮と里宮は密接な関係を保ち現在に

至っています。

かつて、富士山の聖地といわれた山宮浅間神社ですが、社殿は無く、そこには石組みの祭壇があり、その昔、富士山を拝んだ遙拝場としての姿を今にとどめています。そこには歴史を守り続ける人々の思いが感じ取れ、そしてそれを今にひっそりと伝えるこのような聖地は、奥深い魅力と歴史の重みを感じさせます。

今年御鎮座千二百年をむかえた浅間大社の本殿と拝殿は、幣殿により結ばれていて、二層から成る本殿の上層は高欄付の回り縁をめぐらした楼閣風の建物で、この建築様式を浅間造りといっています。



山宮浅間神社

本殿は明治40年(西暦1907年)に国の重要文化財に指定されています。また、今春には本殿と10数棟の保存修理も完成し、その姿は一段と輝きを増しています。

富士山本宮浅間大社では、1200年を記念して、10月27日(金)~29日(日)に御鎮座千二百年記念奉祝祭が盛大にとり行われる予定です。

富士山の「富士山溶岩流3次元マップ」 ～火山防災への取り組み～

1 富士山火山防災対策の背景

富士山周辺は、広大な山麓に多くの人々が生活し、重要な交通路線(新幹線、東名高速道路等)があり、東京からも近いことから、もし富士山が噴火した場合には、大きな被害が起きる恐れがあります。

近年、多くの自治体では、洪水などの災害発生による被災予想を平面的な(2次元)ハザードマップ(防災地図)を作成し、地域の人々に対して危険の可能性や避難経路、避難場所を知らせるなどといった対応を順次進めています。

火山災害においても、全国的に火山防災対策への意識が高まっているなかで、全国の主要な「活火山」を対象にハザードマップの整備が進められています。

富士山においては2004年6月に内閣府より「富士山火山防災マップ」(図-1)が公表されています。そして、その火山防災マップを基にして、富士山周辺の各自治体では、それぞれのエリアを網羅した詳細な富士山火山防災マップを作成して、火山防災対策に取り組んでいます。

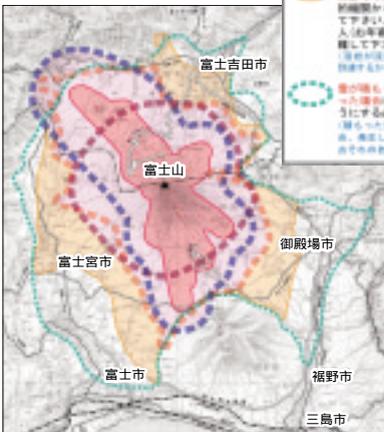


図 1 富士山火山防災マップ

2 溶岩流3次元マップの概要

(1) 立体化の意義

富士砂防事務所では、富士山周辺での火山防災の意識の高まりの中で、住民だけでなく、観光客など多くの富士山を訪れる方々に対しても、「火山防災」への認識を深めて頂くために、溶岩が流れた場合のシミュレーション結果を分かり易く表現した「富士山溶岩流3次元マップ」を作成しました。

それまでの火山防災マップは、溶岩の流れ出る範囲は示されているものの、時間経過とともにどのように流れるのか?といった動きに関する情報が十分に表現できていませんでした。また、地図が細かい場所まで表現されていないので、身近な地域での被害の予想範囲がいまひとつわかりにくいといった問題がありました。

今回作成した「富士山溶岩流3次元マップ」では、映像を立体化して、さらに動画で表示し、それを鳥のように上空から、自由な視点で見ることができるようになっています。

そして、さらに火山防災意識の向上に役立つように、溶岩流をイメージしやすく工夫して作成してあります。

(2) 溶岩流の表現方法

富士山における溶岩流のシミュレーションは、富士山ハザードマップ検討委員会が、過去の火口位置と噴火の大きさを調査し、それぞれの噴火の大きさ毎に「想定火口位置」、「噴出量」等を設定して、合計54パターンを作成しています。

さらに、その54パターンの結果を重ね合わせ、(図-2 溶岩流ドリルマップ)溶岩流の到達時間が同じ範囲を線で結び、「溶岩流可能性マップ」(時間経過に伴う溶岩流の到達範囲を示した地図)(図-3)として表示しています。

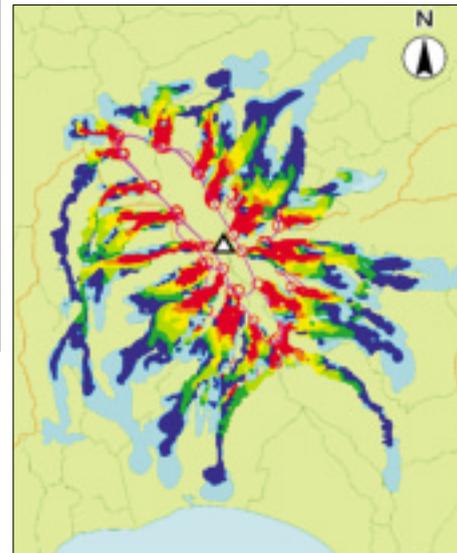


図-2 溶岩流ドリルマップ
(54パターンのシミュレーションを重ね合わせた図)

このようなシミュレーション結果を、溶岩流の到達する時間とその流れ出る範囲を理解し、疑似体験してもらうため、溶岩流を「動画」で表現し、時間経過について7日～45日と長期間にわたるものについても、短時間でイメージしやすいように変換処理して作成しています。

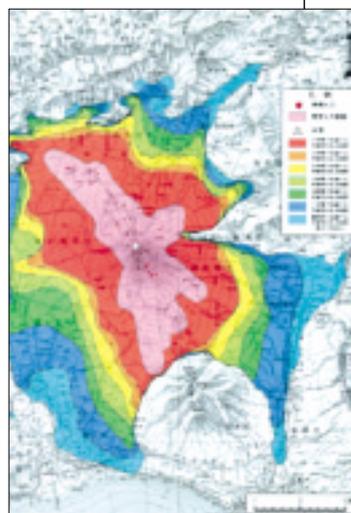


図 3 溶岩流可能性マップ
(時間経過に伴う溶岩流の到達範囲を示している)

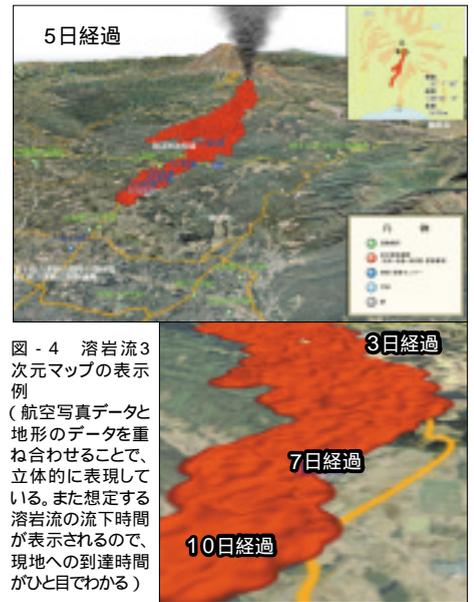


図-4 溶岩流3次元マップの表示例
(航空写真データと地形のデータを重ね合わせることで、立体的に表現している。また想定する溶岩流の流下時間が表示されるので、現地への到達時間がひと目でわかる)

(3) ランドマーク等の表示

ランドマーク(市町村役場や学校、避難場所等の位置や名称)や地名等を表示し、さらに防災対策上重要な避難路や緊急道路となる主要な道路も表現することで、実際の避難の参考になるように作成してあります。

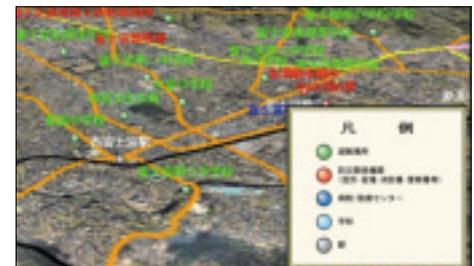


図 5 ランドマークの表示

3 今後

今回作成した「溶岩流3次元マップ」は、今後の火山防災対策において役立つものと考えています。例えば、火山噴火の兆候が見られた場合¹⁾に、溶岩の流れ出る範囲や時間毎の移り変わりをすばやく立体的に表現し、その画像を市町村や住民の方々に提供することで、迅速な避難に役立てることができると考えています。

今後、当事務所への来訪者や講演会などでも「溶岩流3次元マップ」を紹介していくほか、総合学習など小・中学生等を対象とした富士山学習にも活用していきたいと思っています。



写真 1 溶岩流シミュレーション 操作状況
(専用コントローラを使って、ゲーム感覚で操作できる)

1 現在、富士山においては、噴火等の兆候は全く見られません



富士山に暮らす 富士宮市猪之頭にホタル復活！ —井之頭中学校・地域住民サポートチーム—

近年全国的に、宅地化や湧水地の減少などにより、自然のホタルを観ることが少なくなってきました。自然豊かな富士宮市でも例外ではありません。きれいな水、豊かな自然に生息するホタルを、昔のようにもう一度呼び戻そうと富士宮市の各所、どんと池(井之頭中学校)、ホタルの里いのかしら(田貫湖東側)、丸山ホタルの池(大中里)などで、地域の方々によりホタルの保護育成活動が行われています。

今回は、富士宮市立井之頭中学校内の「希望の森」を紹介します。

希望の森



ホタルがいる自然の池「どんと池」

井之頭中学校には、学校の敷地とその周囲に約5haの学校林があります。この森の中に昭和60年、卒業記念行事によって作られた日本庭園、花壇は、生徒たちにより「希望の森」と名付けられています。そして、この森を守り、育てていくため、生徒会活動として、「希望の森委員会」、また地元の方々により「希望の森を育てる会」が発足されました。

このような活動は、学校・家庭・地域社会が結びつき、生涯にわたり、地域の社会と環境に関心を持ち続けることや、自然を守るための基礎知識を身につける良い機会となっています。

「希望の森」にはたくさんの野草が四季折々に花を咲かせ、さまざまな野生動物、野鳥などを見ることができます。このような豊かな学校林は、地元の方々や生徒たちの力によって、大切に守り育てられています。

ホタルの育つ環境づくり

平成10年に「希望の森にホタルの光を」を合言葉として、井之頭中学校ではホタルの保護育成活動が始められました。校内と希望の森の中には全部で3つの池があり、そのひとつに自然の池「どんと池」があります。そこへ、さらに学校から2km離れた所から、富士山の湧水を引き込みました。湧き水は、水質が良く、また池の周囲は自然が豊かで、ホタルが繁殖できる環境がそろっていたこともあり、自然との調和のシンボルである「ホタルの復活」には最適な場所になりました。

学校でのホタル育成活動をサポートするために地元の方々には「ホタル育成サポートチーム」を結成し、ホタルの観察活動をはじめ、ホタルのえさであるカワニナ飼育など、育成活動の支援をつづけています。

生徒たちは、ホタルの調査や飼育活動をサポートチームの方々と一緒に行うことで、環境を守る知識や技術を知らず知らずのうちに学んでいるそうです。



ホタルの幼虫を放流

ホタル鑑賞会

6月23日、井之頭中学校において、「ホ

タルの夕べ」が行われ、全校生徒をはじめ、多くの地域の皆さんが集まりました。はじめに校長先生のあいさつがあり、そして「ホタルサポートチーム」の方による活動報告などが行われました。

会場の「どんと池」では、たくさんのホタルが飛びかい、水上を舞うホタルの光と水に映る光とが重なり合い、とても幻想的な世界が広がりました。

池の周りからは、「うわあーきれい!!」と感動の声もあがっていました。



ホタル鑑賞会「ホタルの夕べ」

取材を通して

失われつつある自然環境を取り戻すためには、どれだけ大変なことが、そして長い年月を必要とするのかを肌で感じとれる素晴らしい取り組みではないでしょうか。次世代を担う子どもたちにとってもかけがえのない勉強になることと思います。私たち、富士山の砂防事業を担当するものとして、どこか目に見えないところで気持ちが一つにつながっている気さえ感じました。これからも、希望の森して各地域での蛍の里作りの夢が益々膨らんでいくことを楽しみにしています。

富士山に 寄せる想い

樹木医として樹木の保護・ 育成の大切さをPR

樹木医とは、樹木の診断や治療、後継樹木の保護育成にとり組み、そして、樹木保護に関する知識の普及や指導を行う専門家です。樹木医の数はまだまだ少なく、現在、静岡県内でも26人で、富士市に限ってはたった1人です。そんな富士市唯一の樹木医 秋山 憲行さんにお話を伺いました。秋山さんの主な診療は、県内の教育委員会や、神社、お寺からの要請により、天然記念物に指定された樹木の傷んだところを診たりするそうです。

樹木と環境問題

近年、地球温暖化や酸性雨、土壌汚染など地球規模での深刻な問題が取りざたされています。富士山でも同じことで、中でも、特にゴミの不法投棄が樹木に対して大きな影響を与えます。山中に不法に捨てられたゴミなどから流れ出す有害物質が地下にしみ込み、周りの樹木に多大な被害をもたらす、自然環境や生態系を破壊するのです。樹木はおろか、私たちの生活も脅か

す恐れがあり、心配されるひとつにあげられます。

これからの樹木医の役割

樹木医として、市民に樹木の保護・育成に関する知識を伝えることも重要な仕事だと思っています。樹木医は専門的な知識と、数多くの経験が必要です。しかし、樹木医は地味な仕事で、緑の下の力持ち的要素が強いため、樹木医を自指す人がな

かなか増えないのが現状です。樹木医は、自然環境維持のためにもなくてはならない重要な役割があります。今後はもっと多くの樹木医が育ち、より多くのおみなさんに樹木の保護育成の大切さを知ってもらうことが私の希望です。

秋山 憲行氏 談

プロフィール

樹木医 秋山 憲行 氏

富士市役所みどりの課課長。平成4年、当時富士市役所林政課在職中に樹木医として認定される。現在、仕事の一環として、県の職員の方々と共に樹木医の資格を活かし活躍中。



お知らせ information

県境を越えた「災害時の相互応援協定」締結

5月10日(水)、富士山を共有する静岡・山梨両県の16市町村で構成する環富士山火山防災連絡会の平成18年度(第2回)総会が、富士宮市の田貫湖ふれあい自然塾で開催されました。富士山火山防災では、避難、救出、救護、物資の支援などにおいて、相互に応援し合う必要性があることから、全国で初めて、県境を越えた「災害時の相互応援協定」が締結されました。



砂防フェスティバルしずおか

6月4日(日)、富士砂防事務所、静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、静岡県砂防室、静岡市、静岡県地方気象台の共催により、6月の土砂災害防止月間PRイベント「砂防フェスティバルしずおか」を静岡市葵スクエア、青葉シンボルロードで開催しました。富士砂防事務所からは、「土石流模型実験」や「パネル展示」などを行い、土砂災害防止に関するPRを行いました。



フーちゃん公園 花植え

6月27日(火)、富士砂防事務所は、富士宮市上井出保育園の園児と共に、潤井川流路工沿いの「フーちゃん公園」の花壇に色とりどりの花を植え、交流を深めました。



富士山総合学習及び現地見学会等結果報告

実施日	見学者等	参加人数	行事内容
4月21日(金)	台湾交流協会	8	概要説明と扇状地見学
4月26日(水)	清水法人会(富士川町長他)	50	概要説明(出前講演)
5月9日(火)	イスラエル大学生	4	概要説明と扇状地見学
5月16日(火)	御殿場中学校	241	大沢扇状地見学
5月16日(火)	砂防ボランティア	18	概要説明と扇状地見学
5月23日(火)	富士宮第一中学校	175	大沢扇状地見学
5月24日(水)	ラジオエフMC高橋裕一郎	1	概要説明と扇状地見学
5月25日(木)	毎日新聞社	2	取材
5月29日(月)	富士宮市立人穴小学校	10	概要説明と扇状地見学
5月31日(水)	静岡県私学教育振興会	30	概要説明と扇状地見学
6月1日(木)	テレビ静岡	1	取材
6月2日(金)	中国水利人材養成プロジェクト研修	3	概要説明と扇状地見学
6月4日(日)	砂防フェスティバルしずおか	多数	土砂災害防止月間
6月7日(水)	富士宮市職員	6	概要説明
6月8日(木)	JICA 各国	5	概要説明と扇状地見学
6月8日(木)	静岡大学農学部学生	40	概要説明(出前講演)
6月9日(金)	富士宮第二中学校	12	概要説明と扇状地見学
6月12日(月)	上井出小学校4年部	12	概要説明(出前講演)
6月13日(火)	大宮小学校5年部	98	大沢扇状地見学
6月14日(水)	富士宮市瑞穂区	26	概要説明と扇状地見学
6月14日(水)	上井出老人ホーム白糸寮(高齢者学級)	41	概要説明(出前講演)
6月15日(木)	富士宮市立大富士小学校5年部	193	概要説明(出前講演)
6月20日(火)	上井出地区(高齢者学級)	60	概要説明(出前講演)
6月20日(火)	富士根南中学校 1年部	10	概要説明
6月21日(水)	まなぼう会(市内郷土史研究グループ)	20	大沢扇状地見学
6月22日(木)	富士河口湖町立大石小学校5年部	22	概要説明と扇状地見学
6月22日(木)	上井出小学校4年部	12	大沢扇状地見学
6月25日(日)	一般者(第5回富士学シンポジウム)	多数	地域イベントなど
6月27日(火)	上井出保育園(フーちゃん公園花植え)	31	土砂災害防止月間
7月4日(火)	富士宮市建設委員	22	概要説明

大沢崩れと御中道見学会の予告

富士砂防事務所では、富士山5合目付近の御中道を実際に歩くことで、富士山の自然に親しんで頂き、また富士山の崩壊地「大沢崩れ」を直接見ることによって、砂防事業への関心を深めて頂くために、「大沢崩れと御中道見学会」を10月上旬に開催する予定です。詳しい募集方法に関しては、9月上旬に「富士砂防事務所ホームページ」や新聞等にてご案内する予定です。



夏休み 富士山大沢扇状地 自然観察会 参加者募集

富士砂防事務所では8月9日(水)、「夏休み 富士山大沢扇状地 自然観察会」を富士宮市上井出の大沢扇状地にて開催します。

富士山大沢崩れから流出した大量の土砂が堆積している大沢扇状地の広大な河原や樹林帯を歩きながら、砂防施設や富士山の自然について学ぶことを目的にしたイベントです。

皆さんふるってご応募下さい。

実施日時:平成18年8月9日(水) 8:30~16:00(雨天中止)

集合・解散場所:JR富士宮駅 北口

参加資格:小・中学生とその家族(小学生は保護者同伴)

参加費:300円(保険料として徴収します。)

募集人員:40名(応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。)

申込方法:「往復はがき」か「Eメール」にて、住所・電話番号・氏名・年齢・性別(ご家族・グループの場合は全員とその代表者)と、「森林教室」・「野鳥観察会」のいずれかご希望を記入の上、7月25日必着で、下記宛先にお送り下さい。

宛先:

国土交通省富士砂防事務所「自然観察会」係

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

E-mail: kouhou@fujisabo.go.jp

問合せ先:

富士砂防事務所

TEL 0544-27-5221

富士砂防事務所ホームページでも募集の詳細がご覧になれます。



平成17年 自然観察会の様子

富士山への手紙・絵コンクール 作品募集

富士宮市、富士宮市教育委員会、富士砂防事務所が主催する「富士山への手紙・絵コンクール」の作品を募集しています。

この「手紙・絵コンクール」は、富士山に関して「寄せる思い」「学んだこと」「共に生きること」を手紙や絵に表現したものを募集するもので、毎年、多くの方々にご応募頂いております。

また、このコンクールを通して、みなさんの富士山に対する思いや願いが、美しい富士山と地域をいつまでも守っていかうとする、豊かな心を持った、人と人とが暮らす文化的「まちづくり」の輪に広がっていくことを期待して実施します。

皆さんふるってご応募下さい。

手紙部門

・応募資格:小学生以上

・作品規格:一人1点(未発表のもの)、官製はがき(400字以内)

絵部門

・応募資格:どなたでも応募できます。

・作品規格:「一人1点」未発表のオリジナル作品に限ります。画材や表現方法に制限はありませんが、クレヨンなど他の作品を汚す恐れのある画材の使用は、ご配慮下さい。用紙は四つ切(54.0×38.0cm)を使用して下さい。なお、額縁の使用は、できる限りご遠慮願います。

募集方法

・募集期間:平成18年7月1日(土)~9月15日(金)当日必着。

・宛先:〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地

富士宮市教育委員会 学校教育課

「富士山への手紙・絵コンクール」事務局

詳しくは、富士宮市教育委員会のホームページ、もしくは富士宮市教育委員会教育課窓口、富士砂防事務所、富士宮市内の図書館、郵便局、公民館などに置いてある募集要項をご覧ください。また、富士砂防事務所のホームページからも募集ページへ進むことができます。

「富士砂防事務所インフォメーション」

~FMラジオにて情報発信中~

Radio 84.4fm Radio-f(ラジオエフ)



~富士山の基礎知識、富士砂防事務所が開催するイベント情報、防災情報等~

コミュニティFM「Radio-f」(84.4MHz) 毎週水曜日 17:40頃から5分間

「富士山について、こんな話を聞きたい」といったリクエストやお便りを募集しています。

宛先など詳しい情報はラジオホームページ(www.radio-f.jp)より「富士砂防事務所インフォメーション」係までお願いします。

私が担当しています

火山対策計画係長

熊切 良行

火山対策計画について担当しております。

昨年、環富士山火山防災連絡会が発足し、富士山周辺市町村が連携し県域を超えた火山防災への取組が動き出しました。

富士山周辺に暮らす皆さんへ富士山周辺市町村と連携を図り、噴火に備えた防災についての情報を啓発していきたいと考えています。



本誌は再生紙と環境にやさしいインクを使用しています。

国土交通省富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

担当/総務課長・小川、または調査課長・石原まで

TEL.0544-27-5387

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出1321-9

TEL.0544-54-0236

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。